

故ダイアナ元妃との離婚などを巡るスキャンダルで、長年に渡って国民の不人気に悩まされてきたチャールズ皇太子の人氣が急上昇だそう。英サンデー・タイムス紙の世論調査によると、英女王の後継者として最もふさわしい人物としての国民による皇太子への支持が、人氣のあるウィリアム王子を上回ってトップになった。これは皇太子がもと不倫相手のカミラ夫人と結婚した 2005 年以来という。

もともと人氣がある上に、これまた人氣絶頂のケイト婦人と昨年結婚し、ますます日の出の勢いのあるウィリアム王子を追い抜いた皇太子の人氣は一応“本物”と言えそう。皇太子の人氣回復の原因について同紙は、6 月上旬に行われたエリザベス女王の即位 60 周年記念行事で、今年 91 歳で入院中の父親のフィリップ殿下への気配りをみせたスピーチを行ったことにあると分析している。さらに皇太子は、これに先立つ 5 月にも、英公共放送 B B C スコットランド放送局の昼の番組にお天気キャスターとして突然登場し、「北東の風が吹く寒い 1 日となるでしょう。いやあ、祝日でなくて良かった」などとユーモアたっぷりに解説し、視聴者を驚かせていた。明らかに彼は“親しみやすい皇太子”をアピールしているが、これを見て、“Jesus”と呼ばれ親しまれる「救世主・キリスト」の逸話を思い出す。

**「イエスと弟子達は、マタイの家で夕食をなさることになり、取税人仲間や名うての詐**

**欺師たちも大ぜい招かれました。これを見たパリサイ人たちはかんかんになり、弟子達に、**

**『あんたがたの先生は、どうしてあんなひどい連中とつき合うんだい』と食ってかかりまし**

**た。」**

**ルカの福音書 5 章 29-30 節 : LB**

である。本来“おエライ神様”であるはずのキリストが、“上から目線”ではなく全ての人に親しみやすく接してくださるのだ。“親しみやすい神”であるイエスに感謝である。

2012-7-15

